

# 佐野短期大学

## 評価短期大学の概要

設置者 学校法人 佐野日本大学学園  
理事長 池田 健次  
学 長 谷島 一嘉  
A L O 長江 弘晃  
開設年月日 平成 2 年 4 月 1 日  
所在地 栃木県佐野市高萩町 973

## 設置学科および入学定員

学科	専攻	入学定員
英米語学		40
経営情報		50
社会福祉	社会福祉	30
社会福祉	介護福祉	80
社会福祉	児童福祉	100
社会福祉	栄養福祉	80
	合 計	380

## 専攻科および定員

なし

# 機関別評価結果

## 1. 機関別評価結果

佐野短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成 18 年 3 月 23 日付で適格と認める。

## 2. 機関別評価結果の事由

佐野短期大学の設置母体である学校法人佐野日本大学学園は、同短期大学の他、高等学校、中学校を擁する学校法人である。昭和 60 年、栃木県佐野市より短期大学設置の要請を受け、同学校法人は平成 2 年に英米語学科、経営情報学科の 2 学科を有する佐野女子短期大学を開学した。平成 8 年に男女共学とし、平成 14 年、名称を現在の佐野短期大学に改め、今日では社会福祉学科を加えた 3 学科の体制をとるに至っている。

平成 17 年 1 月 20 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

建学の精神、教育理念が共に確立されており、それに基づいてカリキュラムが編成されている。また、これら教育目的・教育目標は学生、保護者、教職員等に入学時、オリエンテーション等で説明されており、教職員のアンケート等により定期的に点検されている。

教育の内容、教育課程については、必修、選択の設定、及び講義、演習、実習という授業形態のバランスも全体的にとれている。また、各学科とも学生の多様なニーズに応え、能力を育成するために具体的な資格取得の目標を設定し、指導している。教養教育においては、充実した科目数と語学やコンピュータリテラシー等が重視され、建学の理念に基づいた教養教育への姿勢が窺われる。学生による授業評価が継続的になされており、公開授業、教員研究発表会、教員研修会等、全学的立場から授業内容、教育方法の改善を行っている。学生代表とのフリートーキングも定期的を実施し、卒業時アンケート調査、卒業後の就職先からの聞き取り等、教育の改善に前向きに取り組んでいる。

学生の学習上の問題、悩み等については、学生相談室、クラス担任、保護者への通知、実習巡回指導と多様な対策がとられている。学生生活委員会が中心となって、学生の生活支援も行っている。多様な学生に対する特別な支援として、留学生援助金や社会人学生奨

学金等の経済支援が充実している。

全専任教員の平均著作執筆数は、短期大学として概ね水準を充たしている。「教員研究費規程」、「学会出張及び旅費に関する内規」等が整備され、経済的な裏打ちがなされるとともに、研究室、備品、図書、研修日等が整えられ、研究環境は良好であるといえる。また、科学研究費補助金等、外部からの研究費を利用し、実績が上げられている。

社会的活動に関しては、地域住民との連携をもとに、各種公開講座の開催や公開シンポジウム、経営実践講座等、地域立脚型短期大学をめざして、地域の組織・人材育成に取り組んでおり、また、市民のための介護養成制度等、学生のボランティア活動に対する意識の高揚も図られている。

理事長がリーダーシップを発揮し、学長らと密接な連携をとりながら適切な運営を行っている。理事会、教授会、教育・研究上必要な委員会は、寄附行為や学則等に基づいて開催され、適切に運営されている。事務部門の規模は適当であり、諸規程は整備されている。また、スタッフ・ディベロップメント(SD)活動にも積極的に取り組んでいる。事務局職員は、学務のすべての委員会に所属しており、教員と双方の立場を尊重しつつ、連携している。

予算編成までの手続き、予算執行、出納業務等、適正に行われている。決算終了後の計算書類、財産目録も適正に作成されている。監事や公認会計士の監査意見に適切に対応しており、財務公開も実施している。短期大学、学校法人とともに消費支出比率、人件費比率等も適切で、定員充足状況に相応しい財務体質であり、健全といえる。

自己点検・評価は、学校法人、短期大学内すべての部門、委員会等の代表 14 名から構成される委員会を中心に定期的に行われており、平成 13 年には相互評価実施要領も制定されている。自己点検・評価報告及び相互評価報告の成果は、カリキュラムの改編やファカルティ・ディベロップメント(FD)の諸活動に反映され、各種改善策に生かされている。

### 3. 優れている点及び向上・充実のための課題

#### (1) 優れていると判断される事項

評価領域 教育の内容

- ・ 同僚相互による授業参観、教員研究発表会、学生とのフリートーキング等多岐にわたる教育改善の努力が継続的に行われている。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

- ・ 各学科とも全体指導と個別指導を時宜に即してバランスよく実施しており、入学前の期待値に比べ、卒業時の満足度が上昇している。

#### 評価領域 学生支援

- ・ 入学前課題等による事前教育、基礎学力不足の学生や進度の速い学生に対する習熟度別クラス分け、スチューデント・アシスタント制度、また資格試験のための特別講座等、多彩な学習支援に取り組んでいる。
- ・ 短期大学独自の奨学金制度は、対象人数、金額共に時宜にかなっており、また、リフレッシュ教育支援奨学金は、対象人数こそ少ないが社会人にとっては価値ある支援である。

#### 評価領域 研究

- ・ 学科単位での教員研究発表会や、海外に研究員を派遣するなど、研究活動を積極的に奨励している。

#### 評価領域 社会的活動

- ・ ボランティア活動に全学的に取り組み、全学生へのボランティア手帳の配布、ボランティア標語の募集と表彰、ボランティアデイ（年4回）の開催等、特色のある取り組みを行っている。

#### 評価領域 管理運営

- ・ 毎年度はじめに事務職員各自に職務目標を設定させ、年度末に各自の設定した目標を総括させることにより、自己点検・評価を行っている。また各種委員会の構成委員に事務職員が含まれており、全学的な立場から教職員が協力して大学運営に取り組んでいる。

#### 評価領域 改革・改善

- ・ 他短期大学との相互評価によって学んだことを自校の教育に取り入れている。

### **（２）向上・充実のための課題**

#### 評価領域 学生支援

- ・ 学生の満足度向上のために経営情報科が実施しているような習熟度別クラスの編成や、学生の学力の現状（英米語学科の場合は英語力）を踏まえた上で、基礎学力の向上を目的とする補習的学習や、能力のある学生への指導等を計画的に取り組むことなど、一層の努力をされたい。

### **（３）早急に改善を要すると判断される事項**

なし